No.003

Smiling

2021

一般社団法人
Kids & Smile 広報紙
カンボジアとアフリカの子どもたちと共に

7月号

神は、私たちの差し出す手を待っていらっしゃる

下関労働教育センター所長
中井　淳 神父

私はまだキッズ・アンド・スマイルがバッタンバン友の会であった時、コンゴ民主共和国とカンボジアを訪れる機会を与えてもらいました。たくさんの豊かな体験がありましたが、その中で二つを分かち合わせていただきたいと思います。

コンゴの東側、隣国のルワンダとの国境付近に滞在し、数日間をイジュイ島というところで過ごしました。ここに聖マリア修道女会の学校がありました。この島は、自然に溢れたとても美しい場所ですが、コンゴでも特に貧しい地域と言われています。

将来のリゾート地、キブ湖に浮かぶ美しいイジュイ島

そこにある学校の子どもたちが、先生の話をとても嬉しそうに聞いている授業風景はとても感動的でした。その学校で教えているシスターたち四人が住む共同体に泊めてもらいました。夕食の時、私と同じ世代で校長をしているコンゴ人のシスターに尋ねました。「ここで働いていて一番喜びに感じることはなんですか？」と。私は、「貧しい子どもたちに教育を与えられていること」とか「子どもたちの笑顔を見るときなどです」などの答えを予想していたのですが、答えは全く違うものでした。

イジュイ島モンブの病院附属看護学校前で

「私たちは、神様が必要だと思われる場所に派遣されています。ここで私たちができることは決して大きなものでも、たくさんのことでもありません。しかし、私たちを通して神様が働いてくださっていることを感じます。それが喜びです」

このシスターの言葉から私たちが大きな慰めに包まれたこと、本当に神様が働いておられるのだ、ということを確認しました。人工的な灯りの全くない夜の南十字星とともに輝く満天の星空と共に、あの時の感動は忘れることがないでしょう。

もう一つは、カンボジアツアーの最後の晩のことでした。私たちは障害を持った子どもたちの施設を訪れました。子どもたちは歌を歌ったり踊ったりしながら私たちを歓迎してくれました。そしていくつかのテーブルに分かれて座りました。日本からの青年たちと元気な子どもたちとは別の静かなテーブルに私は座りました。私のテーブルには目の見えない 8 歳くらいの女の子がいて、隣の少し年長の女の子がその子が食べられるように助けてあげていました。

彼女たちとクメール語を話せない私たちは、彼女たちと静かに食事をしていたのですが、JLMM からカンボジアに派遣されていて、私たちに同行していた石田咲子さんとその施設のシスターが同じテーブルに来てくれました。そして、その目の見えない女の子を私の隣に座らせてくれました。彼女は私の手を取り、私の指から私が誰かを知ろうとするかのようにずっと触れてくれました。私は気持ちを伝えたくて、英語で「大好きだよ。神様はあなたを愛しているよ」と繰り返し語りかけました。それに気づいた咲子さんがクメール語で伝えてくれると、彼女が何かを私に言いました。「私もあなたが大好きです。あなたに会えて嬉しいです、と言っていますよ」と咲子さんが教えてくれました。私はその子を思いっきり抱きしめさせてもらいました。私は何かあたたかいものに包まれた感じがしました。子どもたちの施設からホテルまでの帰り途プノンペンの街を、司祭叙階を間近に控えたカンボジア人の助祭さんのバイクの背に揺られながら、私はその子を抱きしめた時、自分自身がカンボジアに抱きしめられたこと、神様に抱きしめられたことをずっと感じていました。この思い出を噛みしめるたびに涙が流れます。

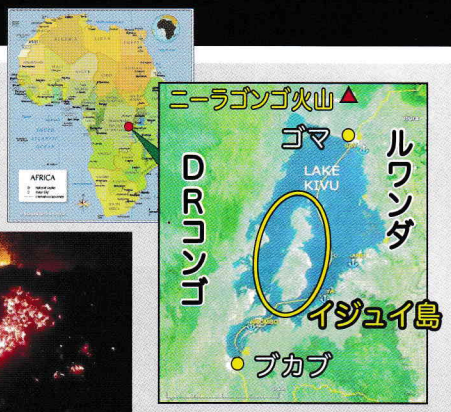
コンゴとカンボジアを訪れる機会によって与えられた恵みの大きさは、計り知れないと思っています。確かに神は小さな者たちの中におられること。
神は、あの子が私に手を伸ばしてくれたように、私たちの差し出す手を必要としてくれていること。そして私たちがその招きに応えるならば、私たち自身が神の手によって包まれ、癒されるということをひとかけらの疑いもなく確信することができました。どちらに向かえば聖霊の風が吹くのか、体験を通して感覚に刻むことができました。

アフリカ通信　ニーラゴンゴ火山の大噴火と避難民

5 月 22 日の夜、コンゴ民主共和国の北キブ州 Goma 近くのニーラゴンゴ火山の大噴火が起こり、多くの死者と負傷者、約４０万人が近郊の町サクやルワンダ国境地帯へ逃れたと日本でも報道されました。
現地の状況について、聖マリア修道女会のアフリカ管区長 Sr.Joséphine からお知らせが届きました。

日本からお見舞いの言葉をいただき、ありがとうございました。火山噴火前には、地震はなく、噴火は突然夜の 7 時に始まりました。幸いにもその日は土曜日で夜だったので生徒たちは皆すでに家に帰っていました。溶岩はヴィルンガ公園のジャングルに流れ込みました。だから、生徒が亡くなったというニュースは真実ではありません。さらに変化があるまで、授業は直ちに停止されました。

郊外では溶岩で被害を受けた家がかなりあります。翌日にはゴマ市で地震が発生し、ほぼ 4 日間続きました。家や道路にはたくさんの裂け目があります。政府は事故を避けるために、火山に近い地域に住む人々に少なくとも 15 日間の避難を強制しました。　カサンド、ブテンボ・・・とあらゆる所に避難民がいます。



ブカブにも、ゴマから船や車でやってきた避難民がたくさんいます。その人たちを家庭や修道院で迎え入れています。ブカブでは食料品などゴマから送られてくるもので生活しているので、多くの人に食料を提供することは非常に困難となっています。

また、人々がゴマに戻ったとき、倒壊しそうな家を修復しなければなりません。それにはかなりの時間がかかります。この人たちのために、たくさん祈らなければなりませんね。

Sr.Joséphine

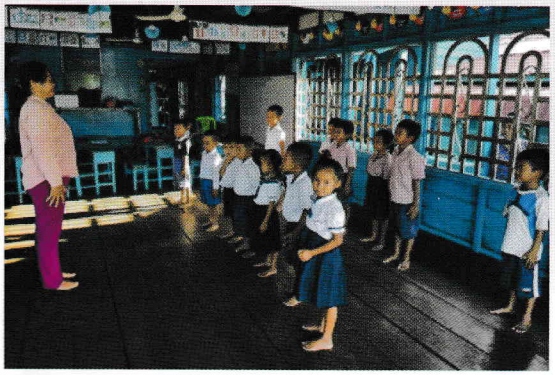
トテット神父からのメール

依然厳しい状況下にあるカンボジア

教育現場におけるコロナ感染症の影響

■ サマーキャンプ

2020 年 9 月、10 月、11 月にはコロナ感染症数が減少し始め、落ち着きを取り戻して以前の日常が戻りつつありました。毎年恒例の小学生サマーキャンプの開催も許可され、まず Piak Snaeng Chas 村、次に Taom 村、そして Kompong Khleang 村の順にサマーキャンプが開催されました。ボランティアの若者たちがファシリテーターとなり、クメール語、数学、英語、ダンス、音楽、カテキズムを教えました。子どもたちは小さなグループに分かれ、各グループに割り当てられた時間にキャンプに参加するため登校してきました。そして、子どもたちは一緒に学び、顔を合わせることができ、有意義な時を過ごすことができました。



Prek Toal 村、人数制限をされた中でのクラス風景

2021 年 1 月 10 日、政府は全国の学校に新学期の再開を許可しました。Sr.Pornthip は教員の体制を整え、クラス再開の準備を行ってクラスを始めることができました。2 月には、幼稚園のクラスも正式に開園しました。ライススーププログラムも再開され、必要な子どもたちには制服、衣服、靴も用意されました。新学期が始まったとき、子どもたちの顔には喜びと希望が溢れていました。

ところが 2 月 20 日、プノンペンでコロナ感染症が再び流行し始め、それが急速に広がってシェムリアップも影響を受け始めました。そして 3 月 20 日、全国で学校の休校や公開集会が中止となりました。また、数日後には、州を跨いでの移動が禁止されました。

誰もが家に留まるように言われたので、シェムリアップの私たちも周辺の村々の幼稚園の様子を見にいくことができなくなりました。村の中では、子どもたちはお互い行き来はできますが、集会は禁止されています。これが現時点の状況です。子どもたちが喜びの中で迎えた新学期はより強力なロックダウン実施の中で、失望のうちに現在に至っています。

Kompong Khleang 村、Taomで再開されたクラス風景

2021 年 2 月から 4 月 30 日までのこの 50 日で感染者数は 10,000 人を超え、ロックダウンにもかかわらず毎日その数が増加しています。私たちは全員が感染することなくこのパンデミックが早く終わり、子どもたちがこれまで通りに勉強できるようになることを願っています。

■ Kids & Smile からの支援

2019 年 12 月から 2021 年 4 月末までの経費のうち、子どもたちの教育費の 73.28% が Kids & Smile からの支援で賄われました。Kids & Smile の支援は本当に大きな助けになっています。Kids & Smile からの支援を除いて、私たちはコロナ感染症パンデミックの前にイギリスから訪れた友人からの寄付以外はほとんどありませんでした。

2021年2月　学校の再開に喜ぶ子どもたちの笑顔

政府は 2020 年 3 月に学校、ビジネス、空港のすべてを閉鎖しましたが、それにより私たちの財政支援システムも崩壊しました。学校が休校措置になっている間でも、教員の給料（$125/ 月平均）の支払いは継続しなければなりません。またライススーププログラムやサマーキャンプの活動の費用も大幅に削減されましたが、Kids & Smile の援助のお陰で給料の支払い、ライススーププログラム、サマーキャンプを行うことができました。今のところ、まだ数ヶ月間は維持できるくらいの残高はありますが、主に給料の支払いに当てる予定です。

その他教材については何とかやりくりをしてきました。しかし、2021 年度はどうなるかは分かりません。かつての状況に戻るのが難しいことは明らかで、これまでよりも支出水準が下回る中での新学年度になることでしょう。

きちんと並べられているサンダル、
Kompong Khleang 村では整理整頓を教えている

最後に、すべての保護者、子どもたち、教員と Sr.Pornthip を代表して、シェムリアップ市と管轄の村々における基礎教育のプログラムを支援してくださる日本の Kids & Smile の支援者の皆様に感謝申し上げます。子どもたちに生きる力と笑顔を与えてくださる善きパートナーに出会えたことに感謝します。支援者の皆様そしてそのご家族の皆様のご健康を心よりお祈りしています。

感謝のうちに

Fr. Jose Hildy(Totet) Banayunal, SJ

お知らせ

カンガス神父様のお話　YouTube 配信

COVID-19 は、いまだに収束の見通しがつきません。この感染症によって多くの苦しんでいる人たち、また閉塞的な状況の息苦しさの中で、皆さんが少しでも明るい気持ちになりますようにと、Kids & Smile の名誉顧問カンガス神父様の動画メッセージを作成いたしました。動画をご覧になり世界で苦しんでいる人たちのことを少しでも心にとめていただき、ご支援いただけたら幸いです。

YouTube

2022 年版

Kids&Smile 卓上カレンダー『カンガス神父と共に』を販売します。

9 月初旬に、昨年同様皆様のお手元に、ご案内状と申し込み用葉書および振込用紙をお届けいたしますので、どうぞご期待ください。

岡村恵美子さんに感謝！　神に感謝！

山口カトリック教会　ルイス・カンガス神父

■ 天国で多くの子どもの親となる

昨年の秋ごろ、私は岡村恵美子さんがカンボジアやアフリカの恵まれない子どもたちのためにという遺志で、多大な遺産を私に託してくださったことを知りました。驚きと嬉しさとに満たされ、岡村ご夫妻に深い感謝を感じました。

岡村恵美子さんは、昨年の６月 17 日に神様のもとに召されました。この日は図らずも恵美子さんのお誕生日だったそうです。本来ならば、私はいの一番に祇園教会に行き、恵美子さんのためにミサを捧げ見送るはずでしたが、新型コロナウイルス感染防止のために広島に行くことはかなわず、山口教会の聖堂でミサを捧げました。その後、祇園教会の皆さんが、とても暖かな良い祈りで見送られたと聞き安心しました。岡村さんご夫妻と私の繋がりは、それ程強いものがあります。

さて、私は、1997 年イグナチオ教会から祇園教会に移りました。ある日ミサの後、岡村ご夫妻と話していた時、恵美子奥さんが藪から棒に言いました。「カンガス神父様、あなたはどんな時でも笑顔でいますが、それは自然ですか？本当の笑顔ですか？それともお芝居ですか？」と。

ありし日の岡村夫妻

私はこれを聞いて何と答えたか忘れましたが、恵美子さんは遠慮なく正直に考えたことを言う方であることがわかり、私もこの人と遠慮なく話しましょうと思いました。それから何回も岡村ご夫妻と話しました。岡村ご夫妻は、子どもに恵まれませんでした。私は言いました「普通の多くの親は、子どもを産み、長い間養い、導き育てていきますが、貧しい国々では子どもを産んでも、育てることができず、父母の役割を十分に果たせない人が多いのです」と。

その時、岡村ご夫妻は、一つの望みをそこに見つけました。それから、旧バッタンバン友の会を通してカンボジアの恵まれない子どもたちへの支援が始まりました。学校を建て、子どもたちの教材、食料、教師のお給料などなどを助けました。これで、岡村さんご夫妻は、カンボジアの多くの子どもの親となりました。

バッタンバン州パイリン市郊外の岡村学校第１号校舎

この度、恵美子さんが、私に託してくださった遺産の全てを私は Kids＆Smile に託しました。Kids＆Smile は岡村さんの遺志を継いでカンボジアのシェムリアップの子どもたちのため、アフリカのコンゴ民主共和国の子どもたちのために、それを役立てることにしました。岡村さんご夫妻は天国で、また多くの子どもの親となることでしょう。

ご主人の健二さんは、2014 年８月広島を襲った豪雨による土砂災害で亡くなられました。それ以降、恵美子さんは元気がなくなり長束にある「み心の家」という老人ホームに入られ、静かな毎日を過ごしていました。私は広島に行く度に恵美子さんの所へお見舞いに行きました。そして、手品をしたり、恵美子さんが興味を持っていた本などを持って行き、そのことについて話をしたりして一時を過ごしました。私は、岡村ご夫妻のために感謝のミサをたびたび捧げています。恵美子さんが亡くなられた時、イエス様が感謝の心をもって喜んで天国に迎えたに違いありません（「最も小さな者の一人にしたのは、わたしにしてくれたこと」マタイ 25 章 40 節）。また、岡村さんご夫妻に助けられた（これから助けられる）たくさんの子どもたちは、大きな感謝をもって祈ることでしょう。

Essay
～ タンポポの綿毛に想う ～

ルイス・カンガス神父

山口サビエル記念聖堂の向かい側には、ちょっと小高い丘があり、てっぺんは公園（亀山公園）となっています。私は、お天気の良い日は毎日そこへ歩きに行きます。昨日も出かけました。公園の芝生にタンポポを見つけました。それは黄色い花ではなく、一本の茎の上にボールのような綿毛を持ったタンポポです。それはかわいらしく、まるで別の花のような感じです。タンポポの綿毛は、そこを歩く人々を喜ばせていました。

その時、急に強い風が吹き、その綿毛はみるみる内に風にのって飛んで行き、消えていきました。私は、その風に自分の楽しみを奪われたような気がして、一瞬嫌な風だと思ってしまいました。しかし、よく考えてみると、私が嫌だと感じたその風によってタンポポの種はあちらこちらに散って、いろいろな所で新しく生まれ変わっていくのです。

そうです！

その風は、タンポポを殺さずに生かしているのです。嫌だと思った風は、見事な風だったのです。タンポポの綿毛は私たちで、風は新型コロナウィルスだと私は思いました。理性を持った賢い人たちは、痛みを感じながらも新型コロナからたくさんの良いことや真を教えられています。

今は、タンポポの綿毛の時代であって、一人ひとりそこに吹いて来る風が何を教えているかを考えていきましょう。

（2021 年 5 月 3 日記）

口座変更のお知らせ

今までの銀行振込先を、
みずほ銀行から三井住友銀行に変更しましたのでお知らせいたします。

私たちの団体の活動は、皆さまからの会費およびご寄付によって運営されています。私たちの団体の目的に賛同し一緒にアフリカ・カンボジアの未来を築いていく賛助会員を募集しています。

その他、随時のご寄付については、何時でもお幾らでも感謝のうちにお受けいたしております。
支援してくださる全ての方に、年２回発行の会報誌および Newsletter（不定期）などをお送りいたします。

会費

賛助会員　１口　2,000 円
団体会員　１口　10,000 円

ご寄付の方法

【郵便振込の場合】
郵便振替口座　00110 -1-265940
加入者名：Kids & Smile

【銀行振込の場合】
三井住友銀行麹町支店
普通預金口座　店番号 218　口座番号 9415509

一般社団法人
Kids & Smile

〒105-0003
東京都港区西新橋 2 丁目18-2　新橋 NKKビル7 階
TEL.03-4405-4067
Web サイト　www.kids-and-smile.or.jp/
E-mail : info@kids-and-smile.or.jp
法人設立年月日　2018 年 10 月 12 日

2021 年 7 月 編集・発行　Kids & Smile